

 <small>栩野 吉弘</small>	シーズ名	葉書アンケートによるインフルエンザの実態調査
	所属・役職・氏名	総合医学教育学・講師・栩野 吉弘 (TOCHINO, Yoshihiro) 臨床感染制御学・病院講師・吉井 直子 (YOSHII, Naoko)
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>インフルエンザは毎年冬季を中心に流行する感染症であり、国民の関心が高い病気の一つである。インフルエンザウイルスは毎年流行のパターンが変化するため、実態調査からわかることが多く、発症を予防するためのワクチンの効果や、薬剤の効果や使用頻度を調査することが重要である。</p> <p>2010-11年シーズンより大阪府下における葉書アンケートを用いたインフルエンザの実態調査を開始した。インフルエンザに罹患し、抗インフルエンザ薬を使用した患者さんに記載していただいている。記載内容はワクチンを打ったかどうか、薬を使用後の熱を中心とした症状の変化、薬の副作用である。</p> <p>&lt;研究シーズ説明&gt;</p> <p>インフルエンザは毎年冬季を中心に流行する感染症であり、国民の関心が高い病気の一つである。インフルエンザウイルスは毎年流行のパターンが変化するため、実態調査からわかることが多く、発症を予防するためのワクチンの効果や、薬剤の効果や使用頻度を調査することが重要である。</p> <p>2010-11年シーズンより大阪府下における葉書アンケートを用いたインフルエンザの実態調査を開始した。インフルエンザに罹患し、抗インフルエンザ薬を使用した患者さんに記載していただいている。記載内容はワクチンを打ったかどうか、薬を使用後の熱を中心とした症状の変化、薬の副作用である。</p> <p>&lt;アピールポイント&gt;</p> <p>2018-19シーズンで9年目を迎える。経年的な変化を捉えることが可能であることと、アンケート内容は追加や変更が可能であり、新たに調査したいことを受け入れることができる。すでに確立した方法であり、実現が容易である。</p> <p>&lt;利用・用途・応用分野&gt;</p> <p>インフルエンザの感染予防策の機器などの実際の使用状況を調査できる。マスクなど感染が広がらないためのデバイスを使用していただき、その感想を書いていただくことも可能である。</p> <p>&lt;知的財産権・論文・学会発表など&gt;</p> <p>(知的財産権) なし (文献)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 葉書アンケートによるインフルエンザ治療実態調査、<u>栩野吉弘</u>ほか、日化療会誌 60 (5): 2012, 541-548</li> <li>2. 葉書アンケートによる 2011～2012 シーズンのインフルエンザ治療実態調査. <u>栩野吉弘</u>ほか、臨牀と研究 2013;90:496-500.</li> <li>3. Current usage and effectiveness of influenza medications and factors regarding the time taken to alleviate fever based on postcard questionnaire survey. <u>Tochino Y</u>, Fujioka M, Sakazaki H, Ikuno Y, Tochino R, <u>Yoshii N</u>, Shintaku H, Hirata K. J Gen Fam Med. 2017 Jun 21;18(6):386-392.</li> </ol> <p>&lt;関連するURL&gt;</p> <p>日経メディカルWEB版、記事  <a href="http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/special/flu/topics/201311/533597.html">http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/special/flu/topics/201311/533597.html</a> </p> <p>&lt;他分野に求めるニーズ&gt; なし</p>		
キーワード	インフルエンザ、実態調査、葉書アンケート	